



黒河内浩後援会報

発行所・伊那市美篤上原4592-3 ☎74-88440
発行責任者・都築 透

No.17

黒河内浩の市議会活動報告

議員活動

友好都市愛知県知立市より「かきつばた」の贈呈式

新山地区のトンボの楽園に移植しました。写真は知立市の市長・議長とともに。(平成30年11月2日)



上伊那クリーンセンター(新ゴミ中間処理施設)が竣工し、稼働開始

新しい処理施設はガス化溶鉱炉で1日に118t (59tの炉が2基)のゴミを処理しています。上伊那全体のゴミが対象で、順調に稼働しています。



クリーンセンター司令部(操作室)

この部屋では炉を監視し、モニター等を通じて管理しています。



クリーンセンター心臓部(溶融炉)

炉は流動床式ガス化炉です。

施設の特徴

圏域内で完結するごみ処理をめざしています。

- ごみ処理して発生する灰を最小化し、最終処分場を延命化します。
- 現在埋め立てている廃プラスチックも処理でき、環境への影響を最小化します。
- 溶かしたごみは、スラグにして資源化します。

安全にごみを処理します。

- 最新のシステムと万全の態勢により、安全で安定的なごみを処理します。
- 最新の排ガス処理により、環境への影響を最小化します。

大幅なコスト削減が図れます。

- 処理に要する費用を年間2億円程度削減できます。(現行年間約7億円)

ごみの持つエネルギーを活用します。

- ごみを燃やすエネルギーによる発電で施設の電力の一部を賄います。
- 余剰エネルギーは電力会社に売却し、エネルギー需要の逼迫に貢献します。

憩の場を設けました。

- 敷地内にマレットゴルフコースや足湯駐車場等憩の場を整備し、サイクリング・ジョギングロードの拠点として位置づけます。

市民と議会との意見交換会を実施

8月には、市内6会場(西箕輪・竜東・手良・長谷・東春近・富県)にて議会と地域住民との意見交換会を実施しました。今年で5回目の開催となります。市民の皆さんからも大変有意義な懇談会であったと言われています。

今後も継続して実施することを議会内で確認しています。出された意見については議会として集約し、政策提言に結びつけていきたいと思ひます。

(令和元年8月20日)



植樹祭

鹿嶺高原にて実施(令和元年7月5日)



黒河内浩 公式ホームページをごらんください。

黒河内浩

検索

<http://www.kurogouchi.jp/>

プロフィール、活動内容
議会での様子が見ることができます。

伊那西高の生徒が6月議会の一般質問を傍聴し、7月には高校において議会と高校生との意見交換会を実施しました。



議長として「議員のなり手不足解消に向けた一連の取組み」を紹介します。

1.『衝撃の現実』から危機感を抱く

平成30年4月の市議選が無投票(初の結果)

+

新人・元議員が定数の半分に近い9名を占める(定数は21名)

議会の危機

市民にとって議会が遠い存在になっていないか。
議会に対する信頼感が薄らいできていないか。
これまでの議会のあり方を変える必要がある。
市民にとって議会が身近な存在となるようにする。
過去の先例にこだわらない、踏襲しない。
危機を克服する対策が必要。
議会の魅力・必要性を市民に訴えていく。

2.『魅力ある議会づくり検討会』を設置

議長選における公約(マニフェスト)として3点を掲げる。
※伊那市議会では議長選は立候補制による所信表明による投票を実施している。

(1)『魅力ある議会づくり検討会』の設置を提案

議会の危機を克服するための対策を検討

(2)事業評価、検証特別委員会の設置

※これまで政策提言してきた内容について、どのような結果になっているか、検証に重点を置いた。
議会基本条例の見直し、再検討にも着手。年内に結論をだす。

(3)議会記念誌(『伊那市議会の軌跡』^{あゆみ})の作成

※平成18年伊那市合併後の議会のあゆみ、特に『改革の歩み』記録しておく。年内に記念誌が完成予定。
※マニフェストの3点ともに、市民を意識し、市民に議会の存在、そして活動の成果をアピールできるようにした。

委員会のインターネット中継の様子



3.『魅力ある議会づくり検討会』の内容

※全議員で構成し、公開。

- 全議員による討議(ワールドカフェを含む)
- 市民との意見交換会の実施
- 市民からのアンケート

検討の結果、内容を3点に絞り、項目別に議論を深めた。

(1)【議員定数について】

現状維持が妥当

【理由】

- 平成22年に定数を見直し、26名から5名減の21名とした経過がある。
- 地域の声を聴き、特に人口減少地域への配慮のためにもこれ以上議員を削減すべきではない。
- これ以上の定数減は、委員会審議等に影響が出る。
- 現状の21名は全国規模の自治体の平均値である。

(2)【議員報酬について】

『特別職報酬等審議会』を開催し、検討してもらうよう要請する。

【理由】

- 若い人の議員のなり手を推進するためには、報酬を上げることによる、生活の安定を図るべきだ。
- これまで20年以上にわたって報酬額が上がっていない。
- 全国同規模自治体の報酬と比較し、伊那市は低い。

(3)【議会への関心度を高める方策】

その1.『市民との意見交換会』の継続と、より意義あるものにするため、開催方法・開催場所を検討すべきだ。

【実施事項】

例年3会場であったのを6会場とし、議員が地域へ出向く形式での開催とした。
出された意見を委員会で集約し一般質問で取り上げ、また重要事項については全議員による議員間討議の上、政策提言へ結びつける。

その2. 議場でのナマ中継だけでなく、委員会審議の中継等、情報発信の質の向上に努めるべきだ。

【実施事項】

3月議会より委員会審議のインターネット中継を開始した。
『議会だより』を毎月発行しているが、継続するとともに、市民目線の、わかりやすい内容とする。

その3. 若い世代、特に高校生に議会の関心度を高めてもらう方策を検討すべきだ。

【実施事項】

高校への接触を図り、高校2年生の2クラスが6月議会の一般質問を傍聴した。
また、その2クラスの生徒と、意見交換会を実施し、議会への感想と市政への思いを語り合った。